

「図書のみち阿南」 構想の具現化に向けて

令和7年12月1日

阿南市教育委員会 図書のみち推進室

目次

I：背景

II：「図書のまち阿南」構想とは

III：主な課題

IV：阿南中央図書館(仮称)の整備

V：那賀川・羽ノ浦両図書館の進化

VI：「あなん『読書テラス』ネットワーク」の構築

VII：「機能進化」と「財源確保」は並び立つものに

VIII：意見募集結果

IX：市民説明会での意見

X：これまでに提出されている要望書

X I：「図書のまち阿南」構想の具現化に向けて

X II：課題の解決に向けて

X III：まとめ

I 背景

R5.10月
阿南市立新図書館基本計画

「市内全域」における
・子供たちの教育
・市民の生涯にわたる
学び
・地域の活動を支える

そのために

図書館は
人やまちの新たな
可能性に寄与

具
体
化
へ

R7.3月
阿南中央図書館(仮称)整備計画

阿南駅に近接する
「新図書館」

位置づけ

「市全体」の
中央図書館と
位置づけて整備

こ
の
機
会
を
捉
え
て

R7.9月
「図書のまち阿南」構想発表

阿南中央図書館(仮
称)を核として

まちづくり

「市全域」において
市民が図書に親しみ
学びあえるまちへ

※那賀川・羽ノ浦両
図書館は「既存建物」
を存続し、「新たな公
共空間」へ進化

Ⅱ 「図書のまち阿南」構想とは

目的

- ・市民の皆さまが培ってきた「阿南の図書文化」を進化させながら、将来世代に引き継いでいくこと

具現化策

- ・阿南中央図書館(仮称)を核として、那賀川図書館・羽ノ浦図書館はもとより、公民館や地元書店等と協働し、阿南市全域における「あなん『読書テラス』ネットワーク」を構築

イメージ図



Ⅲ 主な課題

1 公共施設の最適化

- ・「人口減少の進行」を見据えた「公共施設のあり方(施設数、規模等)」の検討が必要

2 図書館に関する「限られた資源」の有効活用

- ・ひと ⇒ 司書の配置のあり方
- ・モノ ⇒ 蔵書の整備のあり方
- ・情報 ⇒ ICT化の推進、電子書籍の更なる活用 などの検討が必要

3 図書館固有の課題

- ・市民の図書館貸出カード有効登録数は約15%⇒より多くの市民に利用される施設への進化が必要
- ・既存図書館の老朽化対策⇒30年経過により抜本的な長寿命化対策が不可欠

4 阿南中央図書館(仮称)建設費(約37億円)の財源確保

- ・国補助金や有利な地方債を活用することが不可欠
- ・「最大約27億円の国支援」が見込めることを市民にご理解いただくことが必要



知恵や工夫を持ち寄り、「課題解決」に向けた「見直し」や「進化」を検討

IV 阿南中央図書館(仮称)の整備

1 主なコンセプト ～「図書館のまち阿南」の核(中央テラス機能)として整備～

①まちづくりの拠点をつくる

- ・阿南駅前周辺まちづくりの一環として、新たな賑わい創出の拠点に

②多様な居場所をつくる

- ・ここに来るだけで様々な活動・人に出会える、あらゆる世代が活躍できる、多様な居場所に

③まちの資産をつくる

- ・環境性能に優れ、誰もが使いやすく維持管理しやすい、市民に永く愛される図書館に

2 主な財源

・国補助金:都市構造再編集集中支援事業

・地方債:公共施設等適正管理事業債

※要件:新しい施設が供用されてから、5年以内(または立地適正化計画に位置づけられている場合は10年以内)に、集約化・複合化の対象となった施設を「廃止」

⇒「廃止」について:ここでいう「廃止」とは、集約化・複合化の対象となった施設の「機能を廃止」することを意味している
よって、例えば機能を見直した上で、当該施設を貴重な資産として有効に活用することは認められている

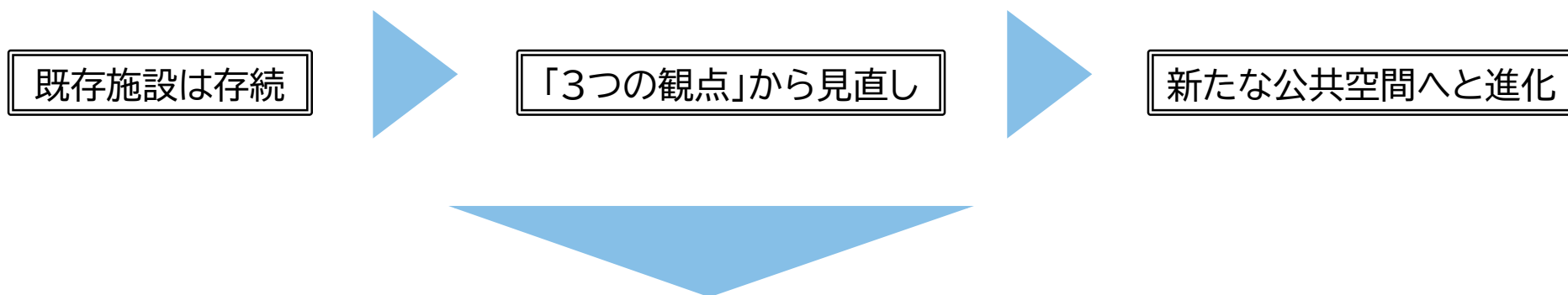
「国補助金」、「地方債」とともに、その有効活用にあたっては、「機能見直し」及び「複合化」が必須条件となる

V 那賀川・羽ノ浦両図書館の進化

1 両館がさしかかっている局面

- ・阿南中央図書館(仮称)の整備にあたり
⇒両館の役割をはじめ、「新たなあり方」を検討すべき局面
- ・両館の老朽化対策の計画を立てるにあたり
⇒ハード・ソフトの両面から今後のあり方を検討すべき局面

2 進化の基本方針



既存機能（那賀川・羽ノ浦両図書館）を進化させる「3つの観点」

①残す機能

- ・読書機能
- ・ブラウジング機能
(くつろぎの空間)

②見直す機能

- ・開架スペースの見直し
- ・お話スペースや
自習スペースへの進化

③新規導入の機能

- ・多世代交流空間
- ・インドアパーク
(雨天時でも遊べる)

VI 「あなん『読書テラス』ネットワーク」の構築

背景

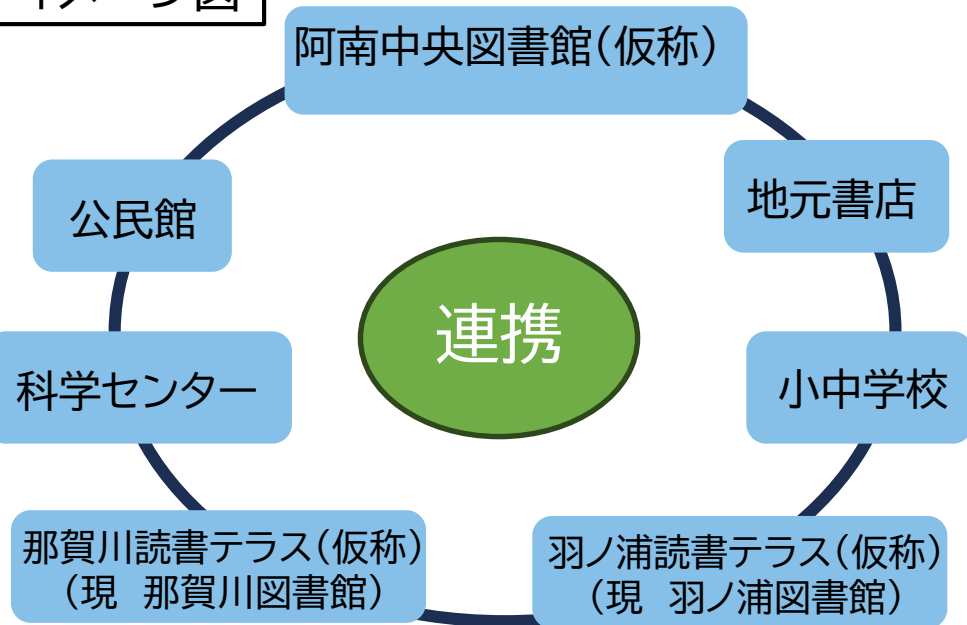
阿南市立新図書館基本計画：新図書館が市内図書館や移動図書館車だけでなく、学校図書館、公民館
(R5.10月) 図書室など、図書に関する多様なサービスのネットワークを支援

読書テラスネットワークとは ～「図書のまち阿南」の具現化に向けて～

阿南市全域において、市民がいつでも、誰でも気軽に集い、図書に親しみ学び合える

『施設連携型のネットワーク』

イメージ図



各施設が工夫を凝らすことで

- ・市民がいつでも、誰でも気軽に集い
- ・図書に親しみ学びあえる

本市ならではのネットワークを構築

VII 「機能進化」と「財源確保」は並び立つものに

「図書のまち阿南」の推進に向けて

「那賀川・羽ノ浦両図書館の進化」

「市の将来にとって有利な財源の確保」

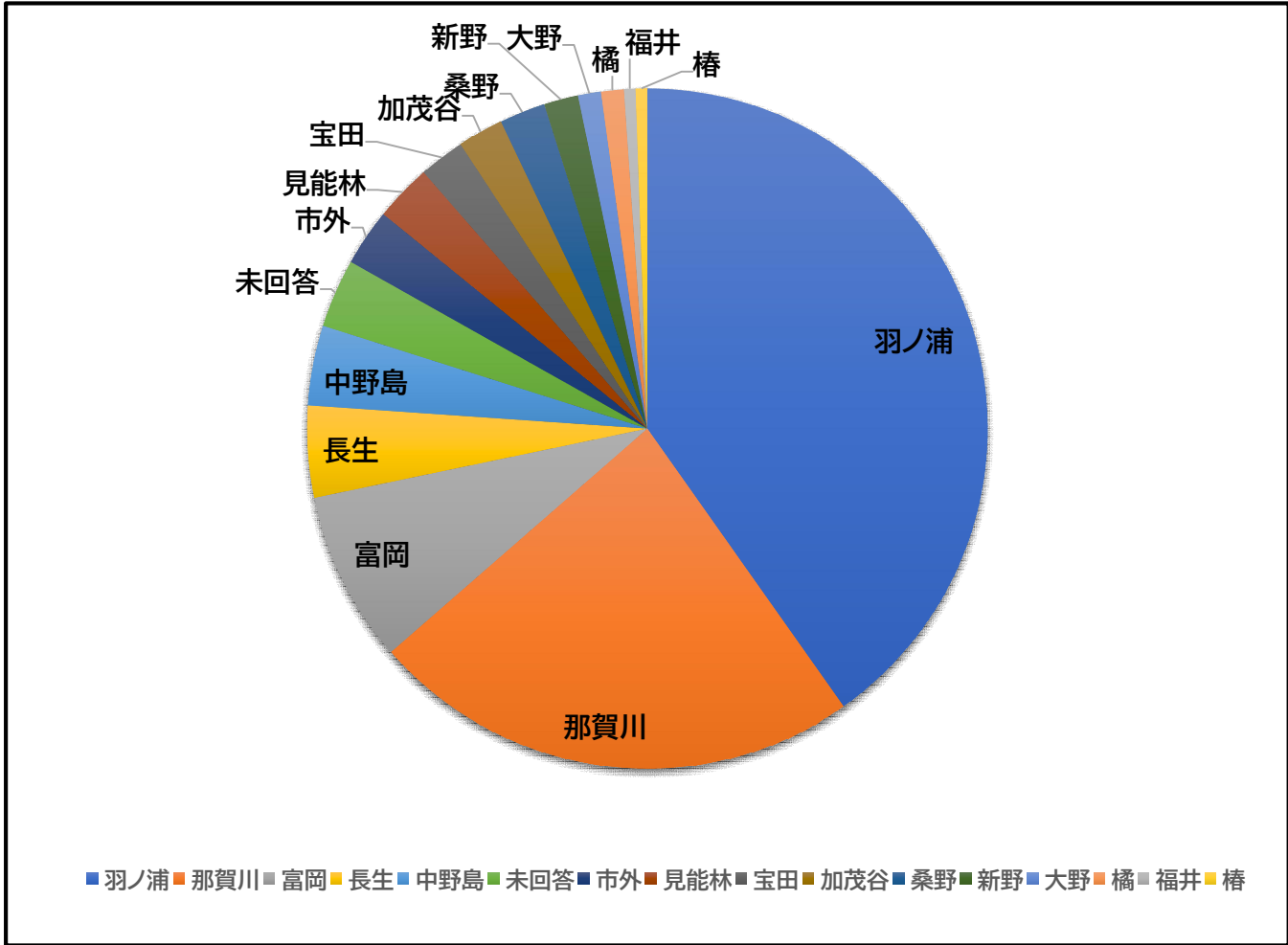
「並び立つもの」とすることが不可欠

そのために

皆さまからいただいた知恵と工夫を市の取りまとめに反映してまいります

VIII 意見募集結果(市ホームページにて意見を募集:R7.10.1~R7.11.30)

地区別回答者数



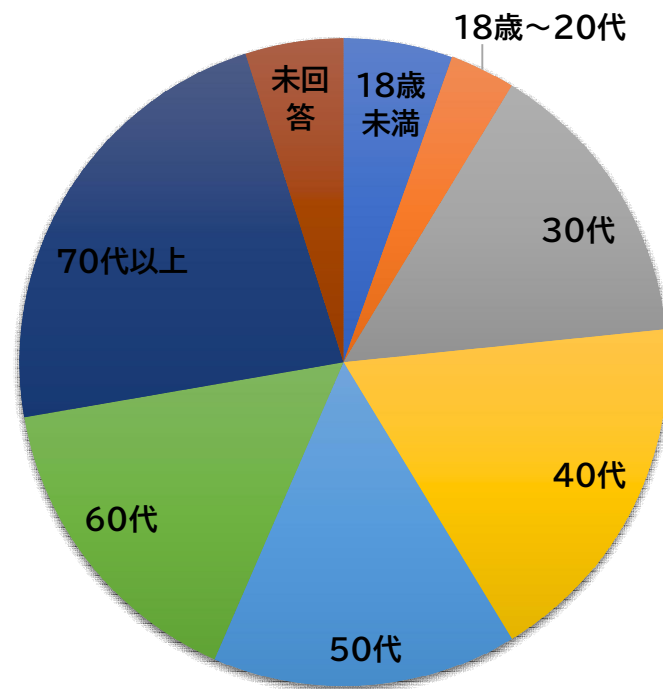
(人)

羽ノ浦	74
那賀川	43
富岡	15
長生	8
中野島	7
未回答	6
市外	5
見能林	5
宝田	4
加茂谷	4
桑野	4
新野	3
大野	2
橘	2
福井	1
椿	1
合計	184

評価:那賀川・羽ノ浦地区をはじめ、市内全域から多くの意見をいただいた

VIII 意見募集結果(市ホームページにて意見を募集:R7.10.1~R7.11.30)

年齢別回答者数



(人)

18歳未満	10
18歳~20代	6
30代	27
40代	33
50代	28
60代	29
70代以上	42
未回答	9
合計	184

評価:様々な世代の方から意見をいただいた

VIII 意見募集結果(R7.10.1~R7.11.30)

45人/184人 24.5%

設問1『「図書のまち阿南」構想について』への主な意見(一部抜粋)

積極的に推進してほしい

- ・出生率の低さを踏まえると、10年先、20年先を見据えた政策にすべきなので、3つの施設はそれぞれ特徴のある施設で良いと思います。図書館を3つとも残すということは未来の阿南市民への負担を大きくしてしまいます。
- ・阿南市の将来を見据えた未来志向の構想であり、持続可能で豊かな学びができる阿南の実現に向け、是非ともこの構想を推進していただきたい。
- ・ネーミングもコンセプトも良いと思っています。自転車や歩きでふらっと行ける場所に本があったらと思うので、町の図書室があれば嬉しいです。
- ・ボードゲームや将棋など、大人から子どもまで楽しみ楽しめる様な施設があってもいいと思う。
- ・子供が遊べるスペースを施設内に設けて、子どもが遊んでる間に親達が本を読んでリラックスできるようにしたらみんなの行き来があって良いと思う。
- ・高松駅にあるツタヤラウンジのように、飲食をしながら本を読める居心地のいいスペースを作って欲しい。
- ・図書館は今の時代に即した新しい形に変わるべきです。

Ⅷ 意見募集結果(R7.10.1~R7.11.30)

49人/184人 26.6%

設問1『「図書のみち阿南」構想について』への主な意見(一部抜粋)

入念に検討してから推進してほしい

- ・(構想について)それはそれで良いと思うが、貸出のできる図書館が1館になるのは絶対に困る。図書館のおかげで本の購入費など大変助かっているし、3館あるのおかげで距離的にも助かる。
- ・図書のみち阿南の構想は、既存の那賀川図書館、羽ノ浦図書館、新設の阿南図書館の三館を軸にしたものにして下さい。
- ・市民が読書に親しむ機会を増やすことは良いが、市内の図書館を1つに集約するのでは、むしろ読書の機会が減り、移動手段の少ない子どもには不便でしかない。
- ・是非進めて欲しいが民間委託などにして阿南市の負担軽減は出来ないのか？
- ・図書のみち阿南と言う構想はいいと思います。それであれば中心部に大きな図書館を1つに集約するのではなく那賀川図書館、羽ノ浦図書館も継続して図書館としての機能も持たせつつ阿南市民が気軽に図書館に通えるような仕組みを継続して作っていくのが良いと思います。
- ・構想そのものについては特に反対するものではありませんが、見方を変えれば「阿南市市街だけ先んじてまちづくりを行い、羽ノ浦・那賀川地区は後回しにされているのでは？」という事を考える人が出てきてもおかしくないと思います。

Ⅷ 意見募集結果(R7.10.1~R7.11.30)

104人/184人 56.5%

設問2『那賀川・羽ノ浦図書館の今後のあり方について』への主な意見(一部抜粋)

存続(機能存続含む)

- ・羽ノ浦・那賀川を図書館として絶対残して欲しい。
- ・那賀川・羽ノ浦図書館は今のままで残して欲しい。今後、年を重ねた時に移動できる交通の方法がなくなるので、近くで行ける所に残して欲しい。
- ・今までどおり司書さん、読み聞かせ機能、貸出をしてほしい。子どもたちの居場所をなくさないで欲しい。
- ・規模の縮小等はやむを得ないかも知れないが、貸出業務の廃止とまらないような配慮をお願いしたい。
- ・両図書館にも司書を置いて図書館の機能を持たせてほしいです。
- ・既存の図書館をなくすのは止めてほしい。近場に図書館がなくなり、さらに本を読む機会が減る。
- ・本を借りられる場所は、羽ノ浦、那賀川にも残してほしいです。
- ・羽ノ浦図書館貸出し利用しています。たいへんありがたく思っています。こちらでの貸出しぜひ続けてもらいたと思います。
- ・図書の貸出機能を残すよう強く要望します。
- ・近くに図書館があるのですごく助かっています。気軽に通えます。

Ⅷ 意見募集結果(R7.10.1~R7.11.30)

35人/184人 19.0%

設問2『那賀川・羽ノ浦図書館の今後のあり方について』への主な意見(一部抜粋)

一部進化

- ・勉強をする環境も「静かな場所」「ちょっと音がある場所」「賑やかな場所」と人によって、『やりやすい環境』は違います。読書テラスについても同じで様々なニーズに応えるカタチにして欲しい。
- ・読書テラスになったとしても、貸出・返却・予約・取り寄せは可能にしてください。(市役所の図書カウンターと同様の機能)
- ・これまで両館を使ったことのない市民や、これからのDX時代を生き抜く若者世代の意見をよく聞き、今後のあり方に反映してほしい。
- ・もっと楽しい優しい雰囲気図書館にして欲しい。
- ・民間委託等をしてサービス向上やコストの削減。
- ・図書館の施設を利用したイベントを増やす。
- ・現在の図書館を細分、改装に経費をかけず、現状で素敵に活用できる方策を考えましょう。例えば庭のある那賀川は、こどもの本を。羽ノ浦では、文芸や作家の育成をテーマにするなど特化してはいかがでしょう。また、少なくとも建物を管理運営するスタッフを配置するのであれば、専門的な民間団体に委託し、市民とともに活用できるよう考えるのがいいでしょう。

VIII 意見募集結果(R7.10.1~R7.11.30)

20人/184人 10.9%

設問2『那賀川・羽ノ浦図書館の今後のあり方について』への主な意見(一部抜粋)

大幅進化

- ・那賀川図書館については、耐用年数はわかりませんが、スペースも広く・立派な建物であり補修をしながらの存続を希望します。羽ノ浦図書館については、耐用年数も近いと聞いています。建て替え時には羽ノ浦支所・公民館・図書館等の複合施設の建設を希望します。
- ・子供や保護者が喜んで利用できるような施設にしてほしい。
- ・子育て広場や、学童保育、などのスペースを作って欲しい。
- ・那賀川図書館にある広い庭園を有効活用して下さい。例えば、園内に幼児が喜ぶ、遊べる噴水を新設するとか、幼児用のプールとか、ウォータースライダー、日陰の休憩所を設置し、例年の猛暑を親子で楽しく乗りきれぬ工夫をして、クーラーの効いた園内の幼児用の図書コーナーと結びつけて、子育てのしやすい阿南を作して下さい。
- ・市or民間の管理費を負担できる程度の営業をやりながら図書、学習、各種イベント会場、防災用の避難場所としてのスペースとして活用。
- ・那賀川図書館については広い庭があり子ども向けのイベントやアニメイベントをして欲しい。
- ・室内で遊べる空間や子育て世代の交流の場にするのがいいと思う。

IX 市民説明会での意見

R7.11.22:那賀川会場 出席者41人
R7.11.23:羽ノ浦会場 出席者53人

市民説明会での主な意見(一部抜粋)

- ・那賀川・羽ノ浦両図書館のこれからの姿の具体案を示してくれた方が市民の意見や提案を出しやすい。
- ・現在、市役所にある図書館カウンターは図書館という位置づけから外れているが、貸出を行っている。最低でも、図書館カウンターを残しますと言ってもらったら安心できる市民は多いのではないか。
- ・意見募集の意見だけでなく、説明会で出た意見も構想に反映してもらいたい。
- ・図書館の機能の廃止とは貸出やレファレンス機能が廃止されるということなのか。
- ・合併協定は永続的なものとは考えていないが、子育て世代は教育に関心が高く、図書館の需要は高まっている。
- ・書架スペースの見直しは、本の面出し等で活用できないか。
- ・新図書館の基本・実施設計が進んでいるが、3月議会では「大幅な見直し」の1言だけにの説明になっている。これは説明が不十分でないか。
- ・3つの機能をもっと具体的に知りたい。図書館の自習室は静かにしなければいけない。音を出してもいいような工夫があってもいいのではないか。
- ・クラウドファンディングやふるさと納税、寄付による財源の確保の検討もしてもらいたい。

X これまでに提出されている要望書

阿南の図書館を考える会(10月2日提出)

「図書のまち阿南」に関する要望書

概要:「那賀川・羽ノ浦図書館を今後とも図書館司書の配置された貸出しができる図書館として阿南市直営で維持して行くこと」

「阿南中央図書館(仮称)は、那賀川・羽ノ浦両図書館と並列の施設となる規模での開館」などを要望

阿南市図書のみち構想考える会(10月31日提出)

阿南市新中央図書館に関する予算及び現行2図書館施設の再活用に関する要望書

概要:「新中央図書館の建設については、国の補助金や起債を十分に活用」

「現行2館の統廃合については、地域特性と多様な市民ニーズを踏まえた再構築・再活用という柔軟な発想での対応」

「図書のまち構想の実現に向けての推進」などを要望

阿南中央図書館(仮称)開館後も羽ノ浦図書館・那賀川図書館を守る会(10月1日中間報告、11月27日提出)

「羽ノ浦・那賀川図書館存続を求める署名」および「市民の声」について

概要:「羽ノ浦・那賀川図書館存続を求める署名」および「市民の声」の提出

那賀川町の読書テラス構想の新機能を考える会(11月28日提出)

那賀川図書館 子育て世代中心の施設変更に関する要望書

概要:「屋内遊具の設置」、「屋外スペースの充実」、「子育て支援イベントの開催」、「ファミリー層が過ごしやすい環境整備」などを要望

※「図書のまち阿南」構想発表後に市に提出されたものののみ掲載

X I 「図書のまち阿南」構想の具現化に向けて

1 阿南中央図書館(仮称)の整備

プロポーザル審査にて採択された
新図書館イメージパース及び基本イメージ

新しい図書館建設は、阿南駅周辺エリア活性化のファーストステップとなる重要なプロジェクトであると考えます。
私たちは、市民の皆さんの声を聴きながら、その大きな期待に応える、まちの誇りとなる建物を目指したいと思えます。
誰もが立ち寄りやすい大きな広場を中心に、多世代が思い思いに様々な活動を楽しむことができ
新たなつながりの起点となる、賑わいと学びの交流拠点をご提案します。

みんなの居場所となり まちをつなぐ図書館

01. まちづくりの拠点をつくる

阿南駅前周辺まちづくりの中核であり、東西市街地の連携強化につながる、新たな賑わい創出拠点と位置付けます。
広場・図書館・地域交流センターが連携した市民の多様な学びと活動の場を形成します。

02. 多様な居場所をつくる

子に読み聞かせる人、読書に集中する人、友と語らう人、広場を駆け回る子、司書に相談する人。ここに来るだけで様々な活動・人に出会える、あらゆる世代が活躍できる、多様な居場所をつくります。



【多様な居場所の例(弊社実績)】

03. まちの資産をつくる

次世代に受け継ぐことができる公共資産として、環境性能に優れ、誰もが使いやすく維持管理しやすい、市民に永く愛される図書館を目指します。



【大きな広場のある図書館イメージ】

阿南中央図書館(仮称)の基本的な方向性

- ・図書館機能と複合機能を一体的に整備し、幅広い世代の多様な利用やニーズに応え、市の生涯学習の拠点となる図書館サービスの提供をめざす
- ・「図書のまち阿南」構想の核、中央テラス機能として整備
- ・令和12年度供用開始予定

X I 「図書のみち阿南」構想の具現化に向けて

2 那賀川・羽ノ浦両図書館の新たなあり方について(案)

基本スタンス

那賀川・羽ノ浦両図書館の今後のあり方については、市民の皆さまの意見や要望を可能な限り反映すると共に、「図書のみち阿南」構想の推進に必要な財源の確保を並び立つものにする

各観点ごとのコンセプト

- ①残す機能：意見募集にて残して欲しいと意見が多かった、「貸出機能」・「司書(レファレンス機能)の配置」・「読み聞かせ機能」等に関しては、可能な限り機能を存続できるように検討する
- ②見直す機能：図書館の限られた資源である蔵書の一部が、新図書館に移管することで生じる書架スペースの空間を見直し、有効活用することで、「自習スペース」等の利便性の拡充を図る
- ③新たに導入する機能：市民の皆さまの意見や要望を反映すると共に、「読書テラス」として有する「読書機能」等と連携できる機能の導入を検討することで、より多くの市民が利用できる公共空間の形成を図る

X I 「図書のみち阿南」構想の具現化に向けて

2 那賀川・羽ノ浦両図書館の新たなあり方について(案)

残す機能

- ・所在施設 ⇒ 存続 ※貴重な資産として有効活用
 - ・読書機能 ⇒ 存続 ※引き続き読書できる空間は維持
 - ・おはなしコーナー ⇒ 存続 ※面積拡大等利便性を拡充し存続
 - ・新聞、雑誌コーナー
 - ・ブラウジングスペース
 - ・司書の配置(レファレンス機能)
 - ・貸出・返却・予約機能
- 存続 ※読書テラスにふさわしい場所として存続
- 存続 ※好評価が多い「図書館カウンター」方式を導入
- ・司書(レファレンス機能)
 - ・貸出・返却・予約機能



見直す機能

- ・書架スペース
 - ・自習スペース
 - ・情報発信機能
- 書架スペースを見直すことで
- ・自習スペースの利便性の拡充(自習スペースの拡充、Wi-Fi環境の整備、電源の確保)
 - ・情報発信機能の拡充(チラシ・パンフレット等を設置するスペースの拡大)
 - ・「歴史コーナー」、「絵本コーナー」など「テーマ別読書コーナー」の設置
- ・資料の収集・保存機能 ⇒ 阿南中央図書館(仮称)へ集約



X I 「図書のみち阿南」構想の具現化に向けて

2 那賀川・羽ノ浦両図書館の新たなあり方について(案)

新たに導入する機能

意見募集・要望書

- ・子育て広場や学童保育等のスペース
- ・若者も高齢者も利用できるeスポーツ
- ・本・雑貨・知育道具等の販売
- ・おしゃべり、飲食ができるコーナー
- ・俳句・短歌などの創作活動ができるスペース
- ・マルシェを開催し、賑わいづくり
- ・読書に興味がない人の居場所づくり

阿南市として

子育て支援機能

官民連携機能
(物販など)

市民交流機能

3つの機能を軸とし、那賀川・羽ノ浦それぞれの地区の特色やニーズに合わせた機能を新たに導入することで、那賀川・羽ノ浦両図書館の新たなあり方を具現化していく

X I 「図書のまち阿南」構想の具現化に向けて

2 那賀川・羽ノ浦両図書館の新たなあり方について(案)

新たに導入する機能 具体案

那賀川図書館

⇒ 導入にあたっては、存続機能とのゾーニングを明確に行う。また、おはなし会活動との相乗効果は基より、那賀川図書館の庭園や那賀川町複合施設との連携を考慮

・子育て支援機能：親子で活用できる全天候型のキッズエリア

※玩具・遊具の設置、知育スペース、防音設備等の整備

羽ノ浦図書館

⇒ 導入にあたっては、存続機能とのゾーニングを明確に行う。また、おはなし会活動との相乗効果は基より、情報文化センターのホール、支所や公民館との連携を考慮

・子育て支援機能：未就学児からティーンズ世代の子どもたちの活動支援

※グループワーク室、展示設備、防音設備等の整備

両館共通

上記導入に併せて、両館共に次の機能を考慮

・官民連携機能：本や飲食物、雑貨等を販売できるコーナー(日替わり、週替わり)

・市民交流機能：飲食可能なスペースや多少音が出てもいいスペース

X I 「図書のみち阿南」構想の具現化に向けて

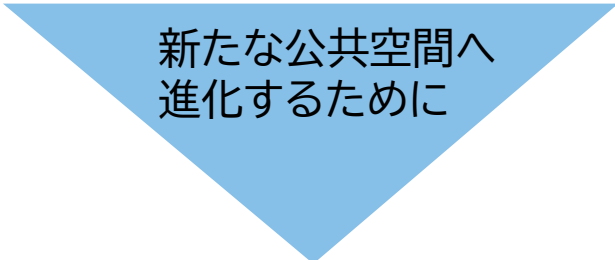
2 那賀川・羽ノ浦両図書館の新たなあり方について(案)

那賀川・羽ノ浦両図書館の位置付け

図書館法(昭和25年法律第118号) 第2条…

この法律において「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設

※阿南市立図書館条例を制定し、那賀川図書館・羽ノ浦図書館を阿南市の図書館と位置付けている



新たな公共空間へ
進化するために

阿南中央図書館(仮称)が整備されるタイミングを捉え、子育て支援機能を導入した「新たな公共空間」としたいと考えており、その進化した姿に相応しい「新たな設置管理条例」を制定する必要がある

X I 「図書のみち阿南」構想の具現化に向けて

3 「阿南『読書テラス』ネットワーク」の構築

小中学校

子どもの読書習慣の確立に向けた働きかけを強化

- ・学習支援(授業内容に沿った資料の貸出)
- ・学校図書館システムの導入(R7年度:中野島小学校・見能林小学校・阿南中学校)

公民館

科学センター等

R7年度 各施設における読書環境の状況調査を開始
各施設が所有している本を取りまとめリスト化



R8年度 市内2～3カ所に読書テラスの「モデル施設」を設置

- ・施設の利用者ニーズに合わせた選書・資料収集
- ・新たな展示スペース
- ・利用される工夫(POPづくり、リスト作成)



多様な施設との連携を強化

公共施設の「読書テラス」だけでなく、市民協働の「私設読書テラス」の設置へ
向けた取り組みをめざす

市内全域において様々なスタイルの「読書テラス」づくり

Ⅱ 課題の解決に向けて

1 公共施設の最適化

課題:「人口減少の進行」を見据えた「公共施設のあり方(施設数、規模等)」の検討が必要

- ・羽ノ浦図書館(耐用年数47年,築31年)、那賀川図書館(耐用年数50年,築32年)
 - ▷ 施設内外の老朽化対策を適切に講じるとともに、市民の声を反映し読書テラスへと進化
- ・阿南中央図書館整備(3,500㎡想定)、除却〔阿南図書館(1,549㎡)、市民会館(4,320㎡)〕
 - ▷ 公共施設の総面積 従来比2,369㎡(40%程度)縮減
- ・施設のランニングコスト逡減▷ 民間事業者活用などを検討
- ・本市全体の公共施設再編、運用の見直しを同時並行で推進

2 図書館に関する「限られた資源」の有効活用

課題:ひと(司書の配置)・モノ(蔵書の整備)・情報(ICT化の推進)などの検討が必要

- ・阿南中央図書館の効用を最大限発揮▷ 司書・蔵書・情報などを一箇所に集約
- ・構想の具現化▷ その他の施設における資源を活用
- ・読書テラスにおいても資源を活用し、市民サービスの拡充に寄与
 - ▷ 中央図書館とのオンライン連携によるレファレンスサービス提供や、中央図書館蔵書の検索・予約・貸出しサービスの導入など(図書館カウンターの設置)

X II 課題の解決に向けて

3 図書館固有の課題

課題: より多くの市民に利用される施設への進化
抜本的な長寿命化対策が不可欠

- ・従来よりも、幅広く、より多くの皆様に、日常的に利用していただく
 - ▷ 図書サービスの質の向上、市民ニーズに対応しうるサービスを提供
 - ▷ 中央図書館も、複合施設として整備(地域交流機能や子育て支援機能を導入予定)
- ・羽ノ浦図書館・那賀川図書館は建築から30年以上が経過
 - ▷ 読書テラス整備の機会に、施設改修・長寿命化改修を一体的・効率的に実施

4 阿南中央図書館(仮称)建設費(約37億円)の財源確保

課題: 国補助金や有利な地方債を活用することが不可欠
「最大約27億円の国支援」が見込めることを市民にご理解いただくことが必要

- ・阿南中央図書館整備に要するイニシャルコスト
 - ▷ 市の負担を可能な限り、平準化及び逡減する取組が不可欠
 - ▷ 都市構造再編集集中支援事業・公共施設等適正管理推進事業債を活用

XⅢ まとめ

意見募集や要望書、図書館協議会、市民説明会等との意見交換会でいただいた市民の皆さまの知恵や工夫を「図書館のまち阿南」構想に反映し、令和7年度中に本構想の具現化案を発表することで、令和8年度以降本格的に本構想の推進を行う



- ・「那賀川・羽ノ浦両図書館の新たなあり方の具現化」、「市の将来にとって有利な財源の確保」を確かなものに
- ・全庁一体となった行財政改革に取り組み、図書館が抱えている課題の解決を図る



阿南中央図書館(仮称)整備を好機とし、これまで培われてきた「阿南の図書館文化」を進化させながら、将来世代に引き継ぎ、市民がいつでも、誰でも気軽に集い、図書館に親しみ学び合えるまちづくりをめざす